

第1号議案

令和元年度 事業報告書

社会福祉法人つつみ会
きらり保育園

目 次

1. 事業内容

- (1) 保育全般について
- (2) 各クラスの保育状況について
- (3) 特別事業について
- (4) 入園・特別事業利用状況について
- (5) 給食・食育について
- (6) 保健衛生について
- (7) 行事について
- (8) 保護者対応について
- (9) 事故防止と安全対策について
- (10) 関係機関・地域との連携交流について

2. 職員の状況

- (1) 職員配置について
- (2) 各会議の実施について
- (3) 職員研修について

3. 苦情対応について

1 事業内容

(1) 保育全般について

開園から5年目となったが、昨年度1年間大きな事故や問題もなく無事終了できた。定員100名のところ、6月には100名在園となったが、9月に転居により3歳児1名が退園し年度終了まで99名在園での運営となった。市内の待機児童は年々増加し保育園入園も困難となっている。それに対し保育士が不足している状況で、昨年度は正職員保育士の入職は一人もなく、短時間パート1名と保育補助2名の入職だけだった。配置基準はかろうじて満たしはしたものの1名の職員が年度途中で産休・育休に入ったため、職員が配置できない一時保育、病後児保育は中断となった。職員不足の中でも職員体制を整え事故の無い様安全管理に充分注意した。2月頃から新型コロナウイルスの感染が社会問題となり保育環境の整備、職員の検温実施、保護者への注意喚起、卒園式の縮小等の対応に追われた。

職員の働きやすい職場環境を作るため、偏りのない業務分担や無駄を省くことで効率化を目指した。職員のモチベーションを上げるため、会議等で職員の意見を吸い上げできる限り取り入れた。外部講師を招いての講演会を開いたりキャリアアップ研修への参加等職員の資質向上にも努めた。

保育活動に関しては、広い園庭を利用した戸外活動を多く取り入れ丈夫な体作りを進めた。子どもの興味を引く楽しい体操をしたり、体幹を鍛える運動を定期的に行った。インフルエンザ等の感染症の流行時も病気に負けない体作りのためのマラソン等も行った。新型コロナ発生後は拡大防止のため子ども達の手洗い指導を強化し、環境改善のための清掃、消毒、換気に注意を払った。

頭では、子どもたちの知的好奇心を刺激するカリキュラムを整え遊びの中で楽しみながら学ぶことが出来るよう工夫した。造形活動では、各クラスで季節感を取り入れ様々な素材を利用した制作を行った。3・4・5歳児は専属講師による英語、リミック教室を定期的に行い、幼保小連携に基づき就学に向けた学習の時間を設けた。

心では、園児と職員との集団生活の中での様々な場面で社会のルールや思いやりの心を育てることを目標とした。年度当初は新担任と信頼関係を築くために子ども達の気持ちを受け止めることを心掛けた。又、各年齢に合わせて他人とのコミュニケーションの取り方が身に付くよう働きかけた。合同保育では、異年齢同士での遊びを通し、年下の子への関わり方を知り、労りの心を育てた。

(2) 各クラスの保育状況について

① 0歳児クラス

年度当初、朝の受け入れの際は、泣いてしまう子どもが数名いた。保育士の抱っこやラックに乗り安心する姿が見られた。園生活にも徐々に慣れ始めると落ち着いて玩具で遊んだり、保育士とふれあい遊びを楽しむことが出来た。「ハイハイ」や「ずりばい」だった子どもは、遊びの中で「つかまり立ち」から「伝い歩き」「歩行」へと移行することが出来た。給食では、離乳食で様々な味を覚え、自ら意欲的に食べられるようになってきたり、食べムラが出始めたりした。徐々に子ども同士で関わって遊べるようになり楽しく過ごした。

② 1歳児クラス

楽しい遊びを通して、保育者の模倣が盛んになり、やり取りを楽しめるようになった。後半になり、子ども同士の関わりが増え、言葉でのやり取りも多く見られるようになった。その中で一人ひとりの気持ちの育ちから、玩具や場所の取り合いなどのトラブルも増えたが、保育者が間に入りながら進める中で思いを言えたり、気持ちを分かってもらえる嬉しさや喜びを感じながら言葉で解決出来たり、気持ちをコントロールできるようになってきた。身辺自立の面でも子ども自身が意欲的に向かう事が増え、排泄や着脱、片付けなどを見守ったり援助しながら進める中で自分で出来たという自信に繋がっていった。

③ 2歳児クラス

一日の生活に慣れ、安定して過ごせるようになる。友達との関りも増え、気の合う友達や集団での「ごっこ遊び」や簡単なルールのある遊びも楽しめるようになった。友達との関りが増えることにより、玩具の取り合いや自我のぶつかり合いも多く見られたが、「かして」「じゅんばんこ」など言葉で気持ちを伝えながら友達と関わるようになった。身の周りのことは、個別で声掛けが必要な子どももいたが衣服の着脱や排泄、持ち物の管理など、ほとんど自分で出来るようになった。

④ 3歳児クラス

新入園児1名、継続児17名の18名でスタートした。年度途中で引っ越しのため1名退園した。進級当初は、トイレトレーニング中の子が多かったが、夏のプール遊びまでには、トレーニングも進み、全員以上児用のプールに入ることができた。生活・活動面では、個別での声掛けや援助が必要な子どもはいたが、毎日、同じことを繰り返すことで身の回りのことは自分で出来るようになった。また、お友達や保育士のお手伝いを進んで行うことで、自信にも繋がっていった。行事に向けての練習も積極的に取組み、集団でのゲームなども楽しんで参加していた。友達との関りや語彙も増えた反面、トラブルも多くなった。初めは保育士の仲立ちが必要だったが、自分たちで話し合っ解決出来るようになった。

⑤ 4歳児クラス

4月から18名定員数で始めた。制作活動ではハサミやのり、折り紙など指先を使った活動を多く取り入れた。ハサミで様々な形や線に沿って切ることが出来るようになり、難しい子どもも保育士と一緒にやる事ができた。遊びでは集団でのゲームや体を使った遊びを取り入れ、他児とルールなどで意見が分かれ、言い合いになることがあったが、保育士の仲立ちにより解決することが出来た。身の回りの事も自分一人で出来るようになり、お当番やお手伝いも積極的に取組むことが出来た。運動会や発表会では、みんなで協力し頑張る力が育ち、完成した時の達成感も同時に味わう事が出来た。

⑥ 5歳児クラス

基本的な生活習慣が確立し身の回りの事も進んで行う事ができた。植物の苗植えや水やり、給食の配膳等の当番活動などを通して責任感を養うことが出来た。また、就学のための文字や数字の学習を楽しみながら習得した。行事にも練習から積極的に参加し、全員で協力することの大切さを学び協調性を養う事が出来た。

(3) 特別事業について

① 乳児保育事業について

生後3ヶ月からの乳児を預かり、看護師を配置して保育した。4月当初は6名、6月以降は定員の12名を保育した。

② 延長保育事業について

前年度同様の時間帯で延長保育を行った。年間を通し朝夕1日平均、約5名の利用があった。19時以降の延長利用は少なく年間で数名ほどであった。

③ 一時保育事業について

在園していない子どもを一時的に保育した。今年度は職員不足により4・5・6月のみ実施した。全部で34回の利用があった。

④ 病後児保育について

疾病回復期で集団行動の困難な状況の子どもを看護師が保育した。外部からの利用は一時保育登録者に限って行った。在園児だけの利用であった。中耳炎、溶連菌で薬を預かり投薬中の子どもは病後児で保育した。職員不足により4月から7月までの実施だった。

(4) 入園・特別事業利用状況

① 入園状況

定員 100 名

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
定員数	12	16	18	18	18	18	100
4月	6	15	17	18	18	18	92
5月	11	16	18	18	18	18	99
6月	12	16	18	18	18	18	100
7月	12	16	18	18	18	18	100
8月	12	16	18	18	18	18	100
9月	12	16	18	17	18	18	99
10月	12	16	18	17	18	18	99
11月	12	16	18	17	18	18	99
12月	12	16	18	17	18	18	99
1月	12	16	18	17	18	18	99
2月	12	16	18	17	18	18	99
3月	12	16	18	17	18	18	99

② 一時保育利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用人数	4	16	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34

③ 病後児保育利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用人数	10	12	28	41	0	0	0	0	0	0	0	0	91

④ 病後児利用の疾患

	胃腸炎	溶連菌	風邪	怪我
0歳児				
1歳児	12	5		
2歳児	4	2		
3歳児		19		
4歳児		31	2	10
5歳児		6		
一時保育				
合計	16	63	2	10

⑤ 延長保育利用状況(各月の1日の平均利用園児数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年平均
早朝	3.6	3	3	6.5	6.6	6	7.8	7.8	6.2	8.5	6.2	6.2	6
夕方	3.4	3.6	4.8	3.8	2.4	2	2.8	3.4	3	3.3	3.8	4.4	3.4

(5) 給食・食育について

① 食育計画について

食育年間計画については、各クラスの年間目標を基に作成しそれに沿った取り組みを行った。各年齢に合わせた計画を立てた。3・4・5歳児は年間を通して活発な活動が出来た。また今年度より幼児クラスは毎月合同給食を行った。食育は以前の反省を活かし作業がスムーズに行えた。

② 実施した食育に関する主な活動(対象児 2・3・4・5歳児)

時期	内容
5月～8月	夏野菜苗植え・水やり・雑草取り・収穫・ジャガイモ堀り・さつまいも苗植え
9月	クラスごとのクッキング
11月	さつまいもの話・さつまいも堀り・クッキング
12月	カナッペ作り・ケーキのデコレーション
1月	味噌作り・クッキング
2月	クッキング・箸の持ち方
3月	ジャガイモ苗植え・クッキング

③ アレルギー対応

食物アレルギーのある子どもへの対応は、保護者からの申請を受けて除去食・代替食の提供をした。誤食を防ぐために給食の食器を他と変えたり、個別に職員がついて提供した。強度の卵アレルギーのあった2歳男児も徐々に症状が改善してきた。

④ 保護者に対して

保護者に食への興味と理解を深めてもらうため、毎月「給食便り」を配布し、食に関する情報を発信したり、給食サンプルを玄関に展示して見てもらった。0歳児の離乳食は毎月保護者に「離乳食状況調査表」を提出してもらい、保護者・担任・調理士と連携して進めた。

⑤ 会議について

今年度は月1回の職員での給食会議に加え、3園の栄養士での給食会議を実施し給食の献立の見直しや食育の進め方について話し合いを持った。

(6) 保健衛生について

園児の日々の健康管理や環境衛生及び感染防止に努めた。今年度は、感染症が蔓延したり大きな怪我人が出ることもなかった。インフルエンザや胃腸炎が流行した時期も数名の感染児を出すだけに留めることが出来た。

① 園児の健康管理

- ・登園時、担任が視診チェック表をもとに、子ども達の健康観察をして看護師に報告した。体調に問題のある子どもについては注意して様子を見た。その後、体調が悪化するような場合は保護者へ連絡を入れ必要に応じてお迎えを依頼した。
- ・毎月1回の身体測定と、嘱託医による内科健診を5月・11月、歯科検診を6月・10月、尿検査を6月・11月に実施し子どもの身体の成長について把握し保護者へ結果を報告した。
- ・保育園での投薬は原則行わないが、嘱託医の要請で溶連菌・中耳炎の抗生剤処方時に限り保護者から抗生剤を預かり看護師が投与した。
- ・看護師が中心となり、子ども達に手洗いや歯磨き指導を行った。

② 園内の環境衛生

- ・毎朝、各クラス担任が看護師が作った次亜塩素酸消毒液でテーブル・床・壁消毒を行った。又、給食やおやつの前には必ず手洗い、アルコールでの手指の消毒を行った。

③ 感染予防

- ・職員は食事の提供をするので、月1回保菌検査を実施した。
- ・感染症発症児には必ず期間内は自宅で療養してもらい又、保育室の消毒を徹底し感染予防に努めた。
- ・園内や近隣で感染症が流行した場合には、「保健だより」で保護者に情報を提供したり、緊急性のある場合は玄関付近に情報内容を掲示し注意喚起した。
- ・職員が園内研修で嘔吐物処理の方法を学び、適切な嘔吐処理をすることで、感染拡大防止に努めた。
- ・新型コロナウイルス対策として、職員・園児の手洗いの徹底、体温測定、来園者の手指消毒、マスク着用などを行い感染防止に努めた。

(7) 行事について

行事も回を重ねるごとに内容の吟味や反省点の改善を行い、保護者に満足感を与えられる行事が開催できるよう心掛けた。早い時期から準備し練習時間を多く持ったことで、当日スムーズに進めることが出来た。職員で話し合い意見を出し合いながら進めた。

① 実施工事

月	行事名	内容
4	○ 入園式	新入園児の入園を保護者、職員で祝った。
5	○ 保育参観 こいのぼり集会	各クラスごとに保育の様子を保護者に見せ懇談会を行った。 全園児でこいのぼりの紙芝居を見たり制作を見せ合った。
6	○ 親子遠足	4歳、5歳児の親子で東武動物公園へ遠足に行った。
7	○ 夏祭り	テーマは和。お神輿・お楽しみコーナー・和太鼓・屋台村を開催し親子で楽しんだ。
10	○ 運動会	お遊戯・かけっこ・親子競技等を親子で楽しんだ。
12	○ 発表会 クリスマス会	歌・楽器演奏・劇等を保護者に披露した。 市ボランティアのサンタクロースがやって来た。プレゼントを貰い楽しんだ。
2	豆まき	職員が鬼になり登場し、豆まきをして厄払いをした。
3	○ 卒園式	18名の卒園児の卒園を在園児、保護者、職員で祝った。

誕生会は毎月実施。○は保護者参加行事

② ボランティアの受入れ状況

夏祭りで筑波研究学園専門学校生9名が祭り準備と当日和太鼓の演奏をしてくれた。

(8) 保護者対応

① 保護者への連絡

保護者への理解や協力を得るため月1回、園情報や連絡事項を掲載した「園だより」「クラスだより」「給食だより」「保健だより」を発行し配布した。又、3・4・5歳児は教室前のホワイトボードにその日の保育状況を記載し保護者に周知した。1・2・3歳児は子どもの連絡帳でその日の保育の様子を伝えた。緊急のお知らせについては玄関の掲示板や登降園表に掲示したり、iネットを利用して伝えた。

② 保護者からの相談

保護者から担任に子どもについての心配事や悩み事の相談があった場合には、丁寧に対応し、担任が判断出来ないことは主任・園長に相談して対応した。保護者の気持ちに寄り添った対応を心掛けた。

③ 苦情に対する活用

連絡帳や口頭で保護者から苦情があった場合は、担任・主任・園長で話し合い検討し対応した。苦情については苦情解決委員会(9月19日、3月4日実施)で報告し第三者委員から助言をもらい、その後の対応に活かした。

(9) 事故防止と安全対策

① 園内の安全管理

- ・早番の職員は園内を見回り危険個所の早期発見に努め、発見後は迅速に対応した。特に遊具については、チェックシートを活用し毎日安全確認を実施した。
- ・プール活動の時期は水の事故を防ぐため、管理表を活用し安全点検を強化した。
- ・外部からの不審者の侵入等を未然に防ぐため、門の施錠や防犯カメラでの安全確認を行った。又、今年度、警察と直結した110番非常通報装置を導入した。

② 園外活動中の安全確認

散歩で外部に出る場合は交通規則を遵守して移動し、交通事故に充分注意した。引率者が目立つよう安全用蛍光ベストを着用したり、散歩用記録簿を活用し安全管理を行った。

③ 災害時の安全確保

定期的(月1回)に様々な災害を想定して避難訓練を実施した。災害時の保護者の引き取り訓練も実施した。

④ 緊急時の対応

園児の体調や緊急時対応のためAEDを備え、職員が使用についての講習を受けた。看護師が事前に熱性痙攣アレルギーのある園児を把握し全職員に周知し注意喚起をした。又、全職員で赤十字職員による子どもの緊急時対応についての研修を受け理解を深めた。

(10) 関係機関・地域との連携交流

① 行政との巡回相談について

5月9日に市健康増進課の巡回相談で、問題行動のある子どもの対応について心理療法士から助言を受けた。

② 小学校との連携

5歳児が就学に向け学校訪問を実施し、小学生と交流を持ったり活動の様子を見学した。小学校の新1年生担任と連絡会を行い、当園からの新入生についての情報提供をした。

③ 地域との交流

近隣へ保育園の生活、行事等について掲載した「きりり新聞」を年2回配布した。前もって夏祭りや運動会の実施日を連絡することで理解を得られるように心掛けた。夏祭りには近隣者を招待した。

2 職員の状況

(1) 職員配置(平成31年3月31日現在)

職種	園長	主任	クラス担任							栄養士	看護師	調理員	保育パート	調理パート	合計
			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	一時						
人数	1	1	3	3	3	1	2	1	0	1	1	1	3	2	23

(2) 各会議の実施

会議名	開催時期
職員会議	月 1 回
給食会議・保健会議	月 1 回
クラス会議	月 1 回
運営会議	月 1 回
苦情解決委員会	年 2 回
防火管理委員会	必要に応じて

(3) 職員研修

職員の資質向上への取組として、園内研修、各種機関の主催する研修会へ参加した。実践の場で活かせるよう保育に関する知識と技術の習得に努めた。

① 内部研修

月日	内容
4月30日	異年齢児の交流について
5月11日	人権擁護の推進について学んだ 樹学園園長による講演
6月26日	幼児と音楽について リミック講師 生方先生による講演
7月13日	子どもの看護と手当の仕方について学んだ 赤十字職員による講演
8月5日	子どもへの言葉かけについて話し合い研修した
9月9日	AEDの使い方の研修 講師中島メディカル
11月21日	幼保小の連携・接続について学んだ
12月17日	非常災害時の対応についてマニュアルをもとに研修した
12月23日	感染症拡大防止に関する研修
2月13日	食育について つくば栄養医療調理製菓専門学校 壱岐先生による講演
3月6日	保育の振り返りを行い来年度に向けた研修を行った。

② 外部研修

月日	内容
5月18日	主催 つくばブロック保育協議会 研修名 講演会「音楽&トークショー」
6月27日	主催 茨城県教育委員会 研修名 幼保小接続担当者研修
7月19日 8月4・5日	主催 茨城県 研修名 保健衛生・安全対策
7月29日	主催 つくばみらい市保健福祉部 研修名 子育て支援研修
8月6・17・ 26日	主催 茨城県 研修名 乳児保育
9月6日	主催 つくばブロック保育協議会 研修名 手遊び歌遊びの広げ方
9月17・30日 10月16日	主催 茨城県 研修名 幼児教育
10月18日	主催 つくばブロック保育協議会 研修名 調理部会講演会 アレルギーについて

10月3日	主催 茨城県つくば保健所 研修名 ペアレントトレーニング
10月7・21日 11月9日	主催 茨城県 研修名 食育、アレルギー研修
11月20日	主催 つくばみらい市教育委員会 研修名 幼児教育と小学校接続のための研修
12月27日 1月6・26日	主催 茨城県 研修名 マネジメント

7

12月26日 1月8・30日	主催 茨城県 研修名 子育て支援研修
1月31日 2月2・12日	主催 茨城県 研修名 障害児保育
1月31日 2月2・12日	主催 つくばブロック保育協議会 研修名 調理部会講演会 アレルギーについて

3 苦情対応について

今年度は、保護者や近隣からの苦情はなかった。行事ごとに実施している保護者アンケートでも概ね好意的な意見が寄せられた。